



「悲しいこと、苦しいことがやってきたとき、それを泣きごとのタネにして、自分をよけいに、不幸にしてしてしまう人がある。

そういうことのであったおかげで、こんな大切なことに気づいた、こんなすばらしい世界があることに目覚めた、と自分を太らせ、深め、広げていくネタにする人がある」
(東井義雄 教育者)

生きてると、楽しいことばかりではありません。悲しいこと、苦しいこと等、いやなことを経験しなければなりません。その時に、私たちはどのように乗り切ることがその後の人生を左右するのだと言えるでしょう。できれば、ここに書いてあるように「自分を太らせ、広げていくタネ」にできる人間でありたいものですね。これからの未来を生きていく子どもたちにもその様なたくましい力を付けてやりたいものです。

一流の選手から教えられるもの(2)

前号でイチロー選手について取り上げました。今号では羽生選手の言葉から学ぶことを考えてみましょう。

彼の華麗な演技を見て、感動をし、元気や勇気をもらった人も多いことでしょう。五輪2連覇という大偉業を成し遂げ、今年7月にプロ転向を表明した羽生選手からの「子どもたちに贈るエール」というメッセージが新聞に載せられていたので紹介しましょう。

「つまらない練習がいずれ 花を咲かせる土に」

- ・それまでの練習は、すごくつらかった。長く苦しい大変な練習が積み重なったからこそ、9歳の時に、ジャンプが一気に全部飛べるようになって、自分が滑りたいスケートができるようになったんです。そのときに努力の結果を一番感じられていたからこそ、スケートが好きになったのかなって・・・
- ・全然楽しくなかったですよ、そりゃ。隙さえあれば休むというか、さぼっていました。先生が見ていないところで雪遊びをしたり、野球をしにいたり、そんなやんちゃな自分でした・・・
- ・ただ、そういう中でも努力をさせられ続けて頑張ったからこそ、「9歳の自信があふれた自分」ができあがって、今も続いているんだと思います・・・
- ・何事も基礎ができているかが、すごく大きいと思います。英語の勉強もそうですが、単語とか文法とか、基礎的なことがないと何もできません。表現する余地もない、みたいな話で。本当につまらない練習かもしれないですけど、そのつまらない練習がいずれ、花を咲かせる時の土になることを想像しながら、基礎練習は常にした方がいいと思います。僕は今もやっています・・・

羽生選手は、基礎練習のことを「つまらない練習」と言っています。でも、この「つまらない練習」に励んだからこそ、世界の頂点に立つような、あれだけの結果を残すことができたのです。基礎練習の大切さについては、これまでスポーツや芸術に打ち込んでこられた人にはわかってもらえることでしょう。

高いビルを建てるには、土台がしっかりしていないと建ちません。その土台こそが、基礎なのです。スポーツでも芸術でも土台がしっかりしてこそ、次の段階に進むことができ、より高みに上れるのです。

スポーツや芸術だけでなく、どんな分野でも基礎が大切です。勉強も同様で、基礎が大切なのです。